

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 61 人

② 算数 61 人

#### 5 留意事項

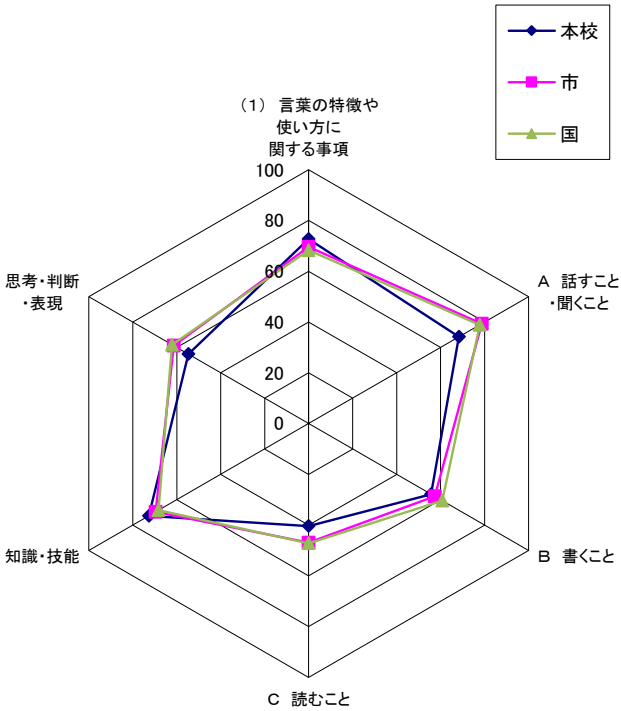
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 72.7 | 69.6 | 68.3 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    |      |      |      |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 68.3 | 78.7 | 77.8 |
|     | B 書くこと             | 55.7 | 57.3 | 60.7 |
|     | C 読むこと             | 40.4 | 46.9 | 47.2 |
| 観点  | 知識・技能              | 72.7 | 69.6 | 68.3 |
|     | 思考・判断・表現           | 54.7 | 61.4 | 62.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

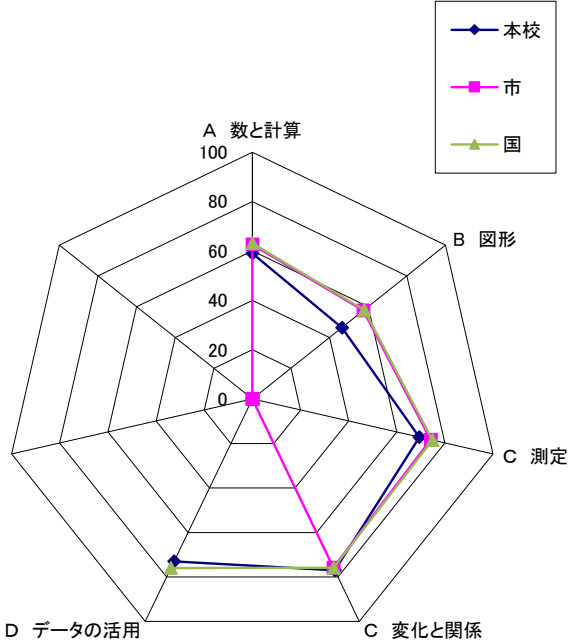
| 分類・区分              | 本年度の状況                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                 |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使いに関する事項 | 平均正答率は、全国平均を上回っている。<br>○文中における主語と述語や修飾語と被修飾語の関係を捉える設問の正答率が高い。学校図書館を計画的に利用するなど、読書活動の成果と考えられる。<br>●文中の漢字を、正しく使うことに課題が残る。 | ・漢字練習の際に、漢字の成り立ちや熟語にも目を向け、同音異義語などにおいても正しく漢字を使うことができるようにする。また、ことわざや慣用句についても慣れ親しむ活動を設定することで、語彙力の向上を図りたい。                   |
| A 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は、全国平均を下回っている。<br>●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、資料を用いた際にその目的を理解したりする設問の正答率が低い。                                 | ・スピーチの学習において、何を伝えるのかを明確にし、そのために必要な情報を考えるなど、スピーチの構成を練る活動を重視するようにする。また、スピーチをする際に資料を用いる利点を捉え、効果的な資料の用い方についても考える機会を設定する。     |
| B 書くこと             | 平均正答率は、全国平均を下回っている。<br>●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えて書く設問の正答率が低い。                                                     | ・国語に限らず、様々な場において書く活動を取り入れ、自分の考えを文章で明確に伝えることができるように指導する。<br>・文章を書く活動では、段落や効果的な資料を用いるなどして、自分の考えが明確に伝わるような書き表し方を工夫できるようにする。 |
| C 読むこと             | 平均正答率は、全国平均を下回っている。<br>●目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を読み取り、中心となる語や分を見付けて要約する設問の正答率が低い。                                      | ・文章を読む活動については、事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとにおさえることで、文章全体の構成を把握しながら要旨を捉えることができるようにする。                                              |

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

○  
【算数】

| 分類 | 区分       | 本年度                                                                             |      |      |
|----|----------|---------------------------------------------------------------------------------|------|------|
|    |          | 本校                                                                              | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算   | 59.0                                                                            | 62.6 | 63.1 |
|    | B 図形     | 46.4                                                                            | 57.5 | 57.9 |
|    | C 測定     | 69.4                                                                            | 74.1 | 74.8 |
|    | C 変化と関係  | 77.0                                                                            | 75.8 | 75.9 |
|    | D データの活用 | 73.0                                                                            | 言葉の  | 76.0 |
| 観点 |          | 4年生では、「授業であつかうノートには学習の目標とまとめを書いている」の質問では「授業の中で、めあてが示されてる」に対する肯定割合が県の平均を上回っている。算 |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                                 |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と計算   | 平均正答率は、全国の平均を下回っている。<br>○余りのある除法の商と余りを基に、必要な箱の数を求める設問の正答率が高い。<br>●基準量を1とした時に比較量がいくつになるのか説明する設問の正答率が低い。 | ・説明することに苦手意識を持っている児童が多く、無解答も多く見られた。問題文を読み取る力を身に付け、説明出来るよう、朝の学習や家庭学習などで数値を変えて説明する問題に取り組む。                                                 |
| B 図形     | 平均正答率は、全国の平均を下回っている。<br>●直角三角形や平行四辺形の面積を求める設問の正答率が低い。                                                  | ・三角形の面積の公式が身につけていないことや高さを認識できていないことが課題と考えられる。平行四辺形については、公式は身に付いているが、高さを捉えることができていない解答が見られた。一人一台端末を活用し、図形の見方や概念を押さえ、面積を正確に求めることが出来るようにする。 |
| C 測定     | 平均正答率は、全国の平均を下回っている。<br>○ある時刻から遡って始まる時刻を求める設問の正答率が高い。<br>●二つのコースの道のりの差を求めるの正答率が低い。                     | ・道のりを求める計算の仕方は理解しているので、計算のきまりを用いて、効率よく計算できる練習問題に取り組む。                                                                                    |
| C 変化と関係  | 平均正答率は、全国の平均を上回っている。<br>○速さが一定であることを基に、道のりから時間を求める設問の正答率が高い。<br>●速さの概念を答える設問の正答率が低い。                   | ・「道のり・速さ・時間」の三つの関連を正しく捉え、求めたいものを正確に解けるようにする。                                                                                             |
| D データの活用 | 平均正答率は、全国の平均を下回っている。<br>○棒グラフを読み取る設問の正答率が高い。<br>●条件に合った帯グラフを選び、その根拠を説明する設問の正答率が低い。                     | ・算数だけでなく、他の教科との関連を図り、グラフの読み方に慣れるようにする。                                                                                                   |

## 宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ICT機器の活用について、一人一台端末の使用頻度が増え、学習に役立つ意識が高まってきている。引き続き授業において一人一台端末を効果的に活用したり、家庭学習に生かしたりしていく。

○新型コロナウイルス感染症拡大での休校中に、計画的に学習を続けたり、規則正しい生活を送ったりすることができていたと回答した児童が多かった。休校中においても授業時数に応じた課題を出したこと成果と考えられる考えられる。また、課題に対する疑問点を身近な人に聞いたり、自分で調べたりする児童が多く、図書資料の活用など、これまでの調べ学習の仕方の定着が図られている。

○自分自身のことや友達との関わりについての項目では、肯定割合が高かった。認める、認め合う場を設定したり、自己肯定感を高めたりする活動を積極的に取り入れることで他者とよりよい関係を築けるようにしていく。

○授業中における話し合い活動では、相手の考えを受け止め、自分の考えを深めることへの肯定割合が高かった。自分の意見を述べることを好意的に捉えている児童が多いと考えられる。

●普段1日当たりのテレビゲーム等をする時間が「2時間以上」の割合が、半数以上となっている。コロナ禍で、家庭で過ごす時間が増えたことにも起因しているのではないかと考える。健康に与えるリスクについては、学級活動を通して継続して指導を行うとともに、保護者への啓発を促すようにする。

●学習全般については、学習することの意義を感じているものの、自ら学習する児童の割合は少なかった。既習事項を用いて新たな課題を解決したり、学習したことを日常場面で活用したりするなど、実感を伴った理解を促すことで、主体的に学習に取り組めるようにする。

## 宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組            | 取組の具体的な内容                                                  | 取組に関わる調査結果                                                        |
|-------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 授業におけるまとめ・振り返りの充実 | 毎時間の授業でめあて・まとめ・ふりかえりをしっかり行うようにしている。                        | 4年生では、「授業であつかうノートには学習の目標とまとめを書いている」の質問では正答率が、県・市より上回っている。         |
| 少人数指導、習熟度別指導      | 少人数指導、習熟度別指導の他に、一人一台端末も併用して学習定着度の把握し、個に応じた学習を進められるようにしている。 | 「授業の中で、めあてが示されてる」に対する肯定割合が県の平均を上回っている。算数では多くの領域で市の平均に近い平均正答率であった。 |
| 個別学習の充実           | 一人一台端末や反復学習などを通して、個に応じた漢字・計算など基礎基本の定着を図る。                  | 言葉の使い方や基本的な計算問題について定着してきている。                                      |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                        | 重点的な取組           | 取組の具体的な内容                                                             |
|-------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 自分の考えや主張を明確に伝える問題の正答率が低い。           | 書く活動の充実          | 短作文や授業の振り返り活動を充実させることで、文章全体の構成や展開を考えながら自分の考えを表現することへの苦手意識を取り除けるようにする。 |
| 課題の解き方を説明したり、式から意味を捉えたりする問題の正答率が低い。 | 課題に対して見通しをもつ力の育成 | 課題を図や数直線などで表す活動を取り入れることで、問題場面を正確に捉え、解き方への道筋をもてるようにする。                 |